

育む『思いやりの心』

江陵高「福祉」教育開設10年
下

「この厚さ、見てください。国や道とのやりとりがどれだけ煩雑で大変だったか分かるでしょう」。鈴木讓二校長は厚さ約10センチあるファイルを、重そうに取り出した。

2005年度に管内高校では唯一の「福祉コース」を開設した江陵高校。09年度に「福祉科」へと転換するため、国や道などに提出した資料の数々だ。

09年施行の法改正で、高校生の「介護福祉士」(国家資格)取得の教育要件が一層厳しくなることが分かっていた。介護実習など福祉の単位数がそれまでの36から52(現在は53)へと大幅に増え、普通科全単位数の半分以上を占めるため、コースのままでカリキュ

コースから科へ

福祉科主任を務める反保遥教諭(左)の授業風景。「やりがいを感じられる、心を育てる授業のために努力している」という



カリキュラムの編成や教諭の確保に加え、大幅に増える実習先を開拓しなければならなかったが、施設側の理解もあり、順調に進めることができたという。実習協力施設の1つ、特別養護老人ホーム札内寮(幕別)の成田啓介総合施設長は「業界に、戦力となる人材を数多く輩出してくれていることに感謝している。今後も可能な限り協力したい」と話す。

高齢化が進み、介護職は全国的にニーズが高まる一方、「きつい」などのいわゆる「3K」の職種とも言われ

地域へ即戦力の人材輩出

ラムが収まらなくなる。同校は08年度に科への移行を決断し、準備を進めた。

「変えない方が楽に違いないが、卒業時に資格取得

できることは大きな売りでもあった。専門知識を持つ人材を輩出するため、科として再スタートする道を選んだ」(鈴木校長)。

ている。同校福祉科(定員37人)のここ数年の入学者数を見て、今年度は35人と昨年度(30人)より増えたが、12年度19人、13年度は15

進路決定100%…学校全体に波及

人とは波があるのが現状だ。ただ、進路決定率については、福祉は10年前のコース開設以来ずっと、学校全体でも4年連続で100%を維持している。進路指導部長の若狭隆志教諭(45)は「福祉が学校全体にプラスの波及を与えている好例」とした上で、「福祉科は現在、3年間で56時間ある介護実習が最高のインターンシップ(職場体験)となり、進路を考える機会にもなっている」とする。

卒業時の目標である介護福祉士の試験合格率も、全国平均が60%程度という中で、同校は90%前後を維持している。鈴木校長は強調する。「卒業して終わりではなく、社会福祉士の資格取得など、在校生や卒業生がさらに上を目指せるサポート体制を学校として構築したい」(佐藤いづみ)

(30面に関連記事)